

ほけんだより 5月

令和4年5月
保健室

子宮頸がんって何？

女性の子宮の入口付近にできる「がん」で、日本では20～40代の女性を中心に毎年1万人が新たに子宮頸がんと診断され年間約3000人が亡くなっています。また、子宮頸がん患者の9割近くで子宮摘出等の手術や抗がん剤治療が必要になり、子どもを産むことができなくなる方も少なくありません。子宮頸がんの95%以上がヒトパピローマウイルス（HPV）の感染によるもので17歳未満でHPVワクチンを接種すると子宮頸がんの88%を防ぐことが報告されています。接種した人も20歳を過ぎたら子宮頸がん検診を受けましょう。



約8割の女性が
HPVに感染



年間約1万人が
新たに診断



20～40代
女性に多い



検診では異常が出てから
しかみつけられません



HPV ワクチンの接種について

4月からHPVワクチン（子宮頸がん予防ワクチン）の接種勧奨が再開されました。それに伴い、接種の機会を逃してしまった女性への「キャッチアップ接種」も無料で行われます。自治体から個別通知が送られますのでしばらくお待ちください。

定期接種（無料接種）の対象者は小学校6年生相当～高校1年生相当です。ガーダシル（4価ワクチン）かサーバリックス（2価ワクチン）を接種します。自費なら1回15,000円～2万円、3回で45,000円～6万円するものです。接種の機会を逃さないようにしてください。

<キャッチアップ接種って何？>

キャッチアップ接種とは、推奨されている年齢で接種ができなかった人に、後から接種することです。今回の場合、平成25年（2013年）にHPVワクチンの積極的勧奨が差し控えられました。それによってワクチン接種を逃してしまった世代に無料で接種しますというものです。



◆ キャッチアップ接種について

- ・対象者：平成9年度（25歳）～平成17年度（17歳）生まれの女性（誕生日が1997年4月2日～2006年4月1日）で、過去にHPVワクチンの接種を合計3回受けていない方
- ・期間：令和4年4月1日から令和7年3月31日まで

◆ 平成18年度、19年度生まれの方のキャッチアップ接種

- ・通常の接種対象（小学校6年から高校1年相当）の年齢を超えても、令和7（2025）年3月末まで接種できます。



◆ HPVワクチンを自費で受けた方への償還払いについて

- ・すでに自費でHPVワクチンの接種（2価、4価ワクチン）をされた方への償還払い（払い戻し）については各自治体の判断になります。ご案内があるまでしばらくお待ちください。

引用参考「みんなハピ!みんなて知ろう HPV プロジェクト」
「ひまわりレディースクリニック」HP

「スマート保健相談室」のご案内

厚生労働省は、からだや性・妊娠などに関する正しい情報や相談窓口などを紹介する、若者向けの健康相談支援サイト「スマート保健相談室」を公開しました。

SNSの普及等により性に関する様々な情報がありますが、男女ともに性や妊娠に関する正しい知識を身につけるため、ぜひ活用してみてください。

<https://youth.mhlw.go.jp/>にアクセス、または「スマート保健相談室」で検索してください。

1 相談窓口

性や妊娠・性被害・性感染症など、様々な悩みの相談窓口を掲載。

2 インタビュー・コラム

インタビュー記事や専門家のコラムなど、参考になる情報を掲載。

3 正しい知識 Q&A

からだや性・妊娠などの健康に関する疑問についての医学的に正しい情報を掲載。（月経に関する悩み、性行為、避妊、妊娠、性感染症、女性に多い病気、男性に多い性の悩み、その他）

4 関連する情報や普及啓発資料

保護者の方や医療従事者向けのホームページなど、関連する情報のリンクを掲載。